
君への想い

ダディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君への想い

【ZZマーク】

ZZ3296U

【作者名】

ダディ

【あらすじ】

主人公を巡る学園ラブコメ小説だと思う。初作品なので誤字脱字があるとおもいますが、よろしければ読んでください。

キャラ紹介（前書き）

キャラ紹介です

キャラ紹介

キャラ紹介

鈴木 裕兜：本作の主人公モテていることに全く気付かない絵に書いたような鈍感男。自分ではモテていないと思つていて

鈴木 恵美…主人公の妹である。まあ過度のブラコン裕兜に近づく女が居れば全力で排除する。戦闘力は某ボール集めるアニメの主人公に匹敵する。

長瀬 美樹：主人公の幼なじみ昔から裕兜のことを意識しているが性格上素直になれないでいる。裕兜とは何かあるたび口喧嘩している。

宮崎 千早…主人公たちの後輩内気な性格でなかなか自分の気持ちを人に言えない。ある事をきつかけに裕兜に恋している。

篠崎 美佳：主人公が所属する科学部の部長何があるとすぐに裕兜を引っ張り回すというはた迷惑な人である。

沢井 加奈：裕兜のクラスメートで委員長いつもバカやつている裕兜と猛にはいつも怒つていてる

平沢 つかさ：裕兜のクラスメートで天然キャラいつも裕兜にべたしててそのたびにクラスの女子から殺意のこもった視線がぶつけられるが本人は全く動じない。ちなみに裕兜に好意を抱いてるわけではない。本人いわく「裕兜君抱き心地がいいんだもん！」らしいです。

瀬川 真子…学園のアイドル。自分は他人とは違うと囲いを作っている

岡崎 猛…裕兜の中學の時からの悪友いつも裕兜にからかわれている。

キャラ紹介（後書き）

主人公の友達のキャラを少し変えました

第一話（前書き）

第一話です

第1話

ある日の朝俺はいつもより起きた…

しかし、腕に妙な重さがあることに気付き視線を隣に向けてみたら…

恵美「ニニニニ…」

裕兜「……」

そりやあ重いはずだ…謎が解けてすつきりした…

裕兜「つて！んなわけあるか――！」

恵美「ふにゃー！何！？何があったの？」

驚いてる俺の妹がいた

裕兜「何があつたの？じゃねえー！」

裕兜「何でお前が俺のベッドにいる？そしてどうして俺の腕を枕にしている？」

俺は怒鳴り散らした。そしたら妹は…

恵美「お兄ちゃんのこと好きだからだよ～やー言ひやつやた

と言つてくれた

裕兜「言つちやたじやねえー！お前は俺の妹じやねえかー妹に告白されてもうれしくも何ともねえーんだよ！」

言つてやつた…すつきりしたと思っていたのも束の間

恵美「もひ照れちゃてかわいいなあ～もう～」

俺生きてるなかでいま一番の殺意が芽生えているがしかし、その殺意を遮るように母親が入ってきた

母「…………」

ガチャーン！

…………もしかしてあらぬ誤解が…

裕兜「じゃねえー！母親ならこの状況を見て他の事が言えんのかー！」

と、仕切りに叫んだらあのバカ母がまた入つて來た

ガチャ

母「やあねえ～〔冗談じやないホホホ〕

殺意がまた芽生えた…俺の家族にまともな奴は居ないのか…と思つた矢先時計を見たら…

裕兜「ああーーー！ち、遅刻だー！」

時計の針は8の文字をかなり過ぎていた。

母・恵美「のろまねえー」

裕兜「誰のせいだーー」の帰つたら覚えていろよー。」

制服を来て出てこいつあると

母「朝」はんはー?」

とこの母親のばか発言に完全にキレた

裕兜「食えるわけねえーだろーが!」

そして玄関にダッシュしたその仕切りに妹のばか発言が聞こえた

恵美「キレイやすいのはカルシウムが足りないからだよーお兄ちゃん

」

俺はもう怒鳴る氣にもなれなかつたからそのまま家を出た。

第2話（前書き）

第2話です

第2話

家を出て学校に向かっている途中

裕「はあ～酷い日にあつたな…」

走りながらそんなことをつぶやいていた。

美「遅い！いつまで私を待たせるつもりよ…」

裕「別に待つてとは言つてないが…」

美「つるさこーー口答えすんな！」

この自分勝手な女は俺の幼なじみの長瀬美樹である。

まあ容姿はかわいいと言つてもいいかもしれない実際にモテているからしかし、性格が最悪である。

常にツンツンしている。そのためある一部の人達からはかなりの人気があった。

まあ俺にはよくわからんが…

美「なにボーッとしてんのよー！」

裕「何でもないよ…」

美「ほらーせつめと行くわよー！」

俺と美樹は学校に向かって走った。

猛「ふふふ…朝から仲がいいじゃないか～んふふふ」

朝から変態が絡んできた。

裕「なあ 美樹」いつ誰?」

美「えーとバカ?」

裕「ああ! バカか! 久しぶりだな… 最後にあったのは2世紀半前のロシアだつたか?」

猛「俺何者! ? てかあんた何年生きてんだよ! ?」

裕「いや…前世の記憶?」

猛「前世の記憶ってあんた何で覚えてんだよ! !」

裕「いやなんとなく?」

猛「すごいへ曖昧ですね! ?

裕「うるさいぞバカ! 朝からお前のような変態に構ってる暇などない!」

猛「酷くない! ?

朝からギヤーギヤーうるさいやつだ…」いつもバカ山バカ太郎俺の悪…バカ「違うからね! ? 何心で俺の名前間違えってるの! ? 俺猛

だから……つておい表示がおかしいだろー？」「

俺の心にまで突っ込んできたやつはバカじやなくて俺の悪友の岡崎猛だ。

いつもこいつやってからかっている。

裕「さて学校に行くか…あれ？ 美樹は？」

気づくと美樹がいなくなっていた。

美樹「裕兜ー！ 先に行くから！」

居た。かなり前方で大きく手を振つていた…

裕兜「ああ…つてそ、うだー！ 俺遅刻しそうだつたんだ！」

バ力に構つてる間にもう完全に遅刻だ…バ力のせい…

猛「なんかものすぐバ力にされてる気がするのは何故？」

裕兜「きのせいだバカ」

猛「おいいいいーきのせいじゃねえよー？ いま明らかにバカつて言つてるじやん！」

さてバカはほつといてさつと学校に行くか…

猛「ちょー？ 待つてよ一緒に行こつぜー？」

バカが何か言つてるがもう遅い俺は既にやつを10㍍以上離してい
るからな！フハハハハハ！

猛「ちょー!? 速くない！?」

そして学校：

美樹「遅かったわね… 裕兜」

裕兜「ハアハア… 置いてきぼりにしてその言い草はないだろ？…」

美樹「うわあ～ 息荒いちょっと近づかないでよ… 変態！」

なんてやつだ人が一生懸命走つて来たつてゆつのに…

裕兜「……」

美樹「ちょっと[冗談じやないそんな田で私を見ないでよー。」

ハア～ここにはもつ少し性格を改めるべきだ

裕兜「で、俺のクラスは？」

美樹「A組私と一緒によ」

裕兜「え～またお前と一緒に小学生の頃からクラス別になつた
ことないじゃん…」

美樹「し、知らないわよー私に言わないでよー。」

猛「ふふふ…お前達は切つては切れない運命で繋がっているのだな
…んふふふ」

裕兜「また出たな変態」

猛「ちよつー？先から俺の扱い酷くない！？」

バカがつるさいが美樹と一緒にクラスに向かうことにした

猛「ちよつとーおこでいくなー！」

美樹「ここね」

裕兜「みたいだな」

俺達は1—Aと書かれた教室に入った。

裕兜「さてと席はどこかなと」

猛「こいだよ。マイフレンド」

変態が居た。てかいつのまに…先はクラスの発表掲示板に居たのに…

猛「俺が本気を出せばこんなもんや」

くそー…こいつに心を読まれたのがめちゃくちゃ悔しい

裕兜「お前と友達になつた覚えはないぞ…変態野郎！」

猛「ちょ！？あんた酷すぎませんかね！？」

裕兜「話すな！空気が汚れる！」

猛「いやいくらなんでも酷すぎませんかね！？」

裕兜一話すなと言つてるだろ？が！お前が話すと地球が破壊される

猛「あの…」

ドガツ！！

猛「ぐぼああ——！！」

裕兜一ふうじこうして世界が守られていく……

美樹 - 何ハ力せにてんたか : 「

そんなこんなでノ学ノモ縫れリHFでの直口縫介の時間

美樹・長瀬美樹で、おじいちゃんの

男子 - おおー！」

やつぱり美樹はモテるな〜

猛「妬くな妬くな」

裕兜「生きていたか…変態」

猛「ねえそろそろ会話しようよねえ！？」

そんなに必死にならんでも

裕兜「わかつたよ…猛」

猛「おいそれより次の奴一年生の中でアイドルの人気がある奴だぜ！」

そう猛が力説した

裕兜「アイドルねえ～」

瀬川「瀬川真子で～す。皆よろしくね～」

男子「キター～～！」

女子「瀬川さんと同じクラスなんて感激！」

裕兜「すごい人気だな～」

猛「当たり前だろ？今じゃ学園のアイドルと言つても過言じゃないぜ？」

裕兜「今つて入学したてだろ？」

猛「甘いな…裕兜…アイドルになる素質がある奴はすぐにでもアイドルになれるんだぜ？」

裕兜「ふうんそういうもんかね?」

猛がああ言つていたが正直よくわからん

猛「おい裕兜次の子結構可愛いぞ！」

裕兜「ん？」

男子女子「可愛」い？？

これまたすごい人気だな：

猛「うおおおおーーーか・わ・い・い・い・」

後ろの変態がうざい

先生「静かにしろ！」

先生がそういうと周りはシーンとなつた

沢井「沢井加奈です。よろしく。」

うわあ 委員長みたいなキャラ来たよ...
（参考：[http://www.4chan.org/thread/1131311](#)）

猛「堅物ぽついけど結構可愛いな?」

裕兜「まあ確かに顔は可愛いが…」

そう沢井つてやつは堅物っぽいけど顔は美樹に負けず結構可愛い…

猛「岡崎猛です。よろしく?ついでに彼女募集集中です!」

しらーん

ああシラけたバカだな…確実今年は独り身決定だな…哀れだ…

裕兜「次は俺か…」

裕兜「鈴木裕兜だ。よろしく。」

.....

女子「キヤー————!!」

おこおじそこまで驚くことないだろ?確かに顔はかっこよくないが
騒ぐまで酷くないだろ?が…

猛「こうして今年も皆お前の虜になっていくだな…このラブルジョ
ワめ」

なんだよ…ラブルジョワってか美樹がものすごい殺気が籠つ
た視線を俺にぶつけているんだが…俺なんかした?

第2話（後書き）

作者「やつと書き終わつたな…」

猛「おい！作者！俺の扱い酷くない！？」

作者「え？あんた誰？」

猛「おいしい！自分の書いた作品の登場人物だろー？忘れんなよ！？」

作者「ああ…変態バカ？」

猛「ちうげえええよ！」

作者「ああ！もうじかんだ！裕兜次回予告よりじぐー！」

裕兜「え！？いきなり！？えーと次回は新しいヒロインと俺の“デートシーンがあるらしいってデート！？ヤバい！？逃げなきや！」

美樹「ど二に？」

裕兜「え！？」

恵美「覚悟はいい？お兄ちゃん？」

裕兜「ちょつ！？一人共落ち着いて！い、いや――――――！」

作者「やれやれそれではまた次回！」

猛「え！？あれ俺の扱いについては！？」

作者「ああ…悪くなることがあつても良くなる」とはないよ所詮バ
力だしな」

猛「酷つ！？」

作者「じゃあ今度こそまた次回！」

第3話（前書き）

第3話です

第3話

「ついで血口紹介も終わりH.Rでは先生のへや長にてンプレ話を聞いている…

裕兜「……………ハア～」

ちょんちょん

ん?なんだ?誰かに肩を叩かれたような?

ちょんちょん

ふと隣を見ると俺の肩をちょんちょんと叩いている。女子がいた
えーと確か…

裕兜「平沢……さん?」

平沢「うんー正解!」

なんかわからんが正解した……いやいやちづじやなくて…

裕兜「何か用かな?」

平沢「別に用つて訳じやないんだけど隣同士だからこれからよひしくといつことで挨拶してみました!」

なるほどね…まあ確かに隣同士なら友好関係を作りやすいな…

裕兜「そりが…よろしくね平沢さん」

平沢「さんまつけなくともこことよなんならつかせでもこことよー。」

裕兜「いやいくらなんでもいきなり下の名前は…じゃあ平沢ってことで」

平沢「うん…よろしくね裕兜くん!えへへーーー」

そういうと平沢は俺の手を握った…おおいいくらなんでも異性相手にこんなことまでするか?俺以外だったら勘違いレベルだぞ?

平沢「ああーそうだ!今日の放課後空いてる?もし空いてるなら買いた物に付き合つて欲しいんだけど…」

おいおいきなり会つて間もない俺を買い物に誘うか?てか上田遣いやめてくれすぐく可愛いし上田遣いされると嫌でも断れないんだぜ。男という生物は…

裕兜「…………別にいいぜ」

平沢「本当ー?やたーーー」

ああ負けたよ負けましたよ……平沢可愛いしそんな子に上田遣いつれて断れるやつは男じゃないぜもしくはホモだ

先生「…………ジーー」

ん?なんだ?先生がこっちを見ている

先生「ゴホン…えー仲が良いのはわかつた…だが今は先生が話しているんだが…」

し、しまつた―――今がHR中だといづれとを忘れてた―――！

裕兜・平沢「す、す、すいませー――ん…！」

クラス中がドッときいた

そしてHRも終わり皆が帰り支度をしてるとき…美樹は男に囲まれていた…さすがだ…だが…2秒も持つまい…

美樹「あんたらウザい…いくら話し掛けてもあんたらなんか相手にしないから…ミジンコ以下の『ミ共が…』

うわあ～酷つ…ほり見る皆自信喪失したような顔で逃げ帰つてくじやないか…

平沢「じゃあ行こうか裕兜くん」

裕兜「ん? そうだな…そろそろ行くか…」

猛「己裏切り者め…」

変態がなんか言つてゐるがしらんな

美樹「デート楽しんでね」

裕兜「別にデートじゃないんだけど…」

美樹「ふん！知らない！」

そういうと美樹は教室を出ていった

裕兜「何なんだ？」

平沢「裕兜くーん早く行こ」ひー。

裕兜「ああ…今行く」

ひーして平沢と買い物に向かつた。

裕兜「さてと平沢は何買い物に来たんだ？」

平沢「んーと服とかかな？」

裕兜「かな？って決めてないのかよ…」

平沢「女の子にとつて見てまわるのも楽しいんだよー。」

裕兜「ふーんそんなもんか…」

そして… 服屋

平沢「ねえねえー！」れどつかな？

裕兜「うん可愛いんじゃないか？」

平沢「えへへ／＼／＼そうかな…」

「やりとりをしてもう一時間近く…ハア…何で女って奴はいつ買
い物が長いんだ…」

平沢「ねえ」「ひちまびづかなかな?」

裕兜「平沢は素で可愛いんだから何着ても似合つて済みやつ…」

平沢「えへへ／＼／＼裕兜くんにそういう風で貰えると嬉しいな…よ
！決めた！これにする！」

やれやれやつと決まったか…

平沢「買つて来たよ～」

裕兜「それじゃ帰るか」

平沢「うん」

帰り道で平沢がクレープを食べたいと言つたから俺は今クレープを
買つてゐる訳だが…何故だ？何故数分独りにしただけで不良に絡まれ
てるんだ？いや確かに平沢は可愛い…だからといってこんな短時間
で絡まれることないんじゃないかな？アニメやマンガじやあるまいし
…ハア…仕方ないか…

不良1「いいじゃん。俺らと一緒に遊ぼうよー。」

平沢「あの…でも…私…」

不良2「うひょー可愛いいーーーいいじゃん一緒に行こうよー。」

平沢「あ…？やめて下さー…？離して…？」

不良1 「いいからいいから」

裕兜 「おいーその子の手を離せ！」

不良2 「あ？ なんだてめえ？」

裕兜 「もう一回言つぞ？ その手を離せ…」

不良2 「おーおー？ あんまふざけてると殺すぞー！？」

裕兜 「これが最後だ… 手を離せ…」

不良2 「てめえ…」

不良1 「おーー…やめろー…おーー…だぞ」

不良2 「えー…ま、マジかよー！」

裕兜 「……」

不良2 「あ、あ、あはははそのすいませんでしたーーーー！」

そういうと不良共は逃げ帰つて行つた。ふう～よかつた～高校入学
したててケンカはあんまりしたくないからな…

平沢 「う、う、う」

裕兜 「平沢もう大丈夫だぞ？」

平沢「うわあああああん！！怖かつたよ！裕兜くーーん！」
ガバッ

裕兜「おいーなにいきなり抱き着いてんだよーやめろって
ちよー！？いきなり何なんだよー？健全なる男子高校生にそんなこと
すると理性が…ああいい匂いが…ああ女の子ってこんなに柔らかい
のか…ってやっぱいやばい！保つんだ俺の鋼の理性！」

平沢「ひっく、ひっく、離れなきや駄目？？」

ちよー！？それ！？反則！？涙田で上田遣いとかむりだらう！

裕兜「いいよ好きにしてくれ…」

それから数分後

平沢「ゴメンね…怖かつたからつい…」

裕兜「別にいいけど氣をつけろよ。お前可愛いんだから…」

平沢「うん…大丈夫！抱き着くの裕兜くんだけにするからー…」

裕兜「まあそれならいいけど…ってんなわけあるかー…！」

平沢「ふえー？」

裕兜「ふえー？じゃねえーーーそういうのは好きな奴とやれー！」

平沢「え？私裕兜くん好きだよ？」

裕兜「な！？／／／」

平沢「えへへ／＼／＼駄目？」

裕兜「ハア～勝手にしてくれ…」

多分平沢の言う好きなは友達としてことだらり…でもあんなに可愛い
かおして上田遣いされたら弱いな…おれ…

裕兜「じゃあ帰るか…」

平沢「うん…でも…クレープ食べそこなっちゃたね…」

裕兜「それはお前が抱き着いてきたからだろうが！」

平沢「うん…ごめん…でも裕兜くん抱き心地よかつたよ…」

裕兜「ハア～そりゃ Bieber も

もう何も言つまじ…そのあと平沢を家まで送り届けてから自分ちに
帰つた

第3話（後書き）

作者「書き終わったな……」

裕兜「…………」

作者「あ、あれ？ ゆ、ゆ、裕兜？」

恵美「ふう～……さて次は……」

美樹「作者ね」

作者「え！？ ちょー！？ なんでー！？」

恵美「なんで？ それはねお兄ちゃんが私以外の人とラブラブデートを書いた罰」

作者「いやだつてこれラブコメ作品だし……」

美樹「問答無用！！」

作品「ギヤー——————！」

恵美「ふう～やれやれ」

瀬川「次回は私と裕兜くんのラブラブエピソードでーす。お楽しみに！」

恵美・美樹「何！？」

作者「やれやれ酷い目にあつた…ってえ！？もうこや-----」

恵美「まったく書くなら私との話にしてよね…」

平沢「じゃあ皆また次回！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3296u/>

君への想い

2011年12月25日13時46分発行